

2016年度 道徳性・向社会性分科会活動報告

日本発達心理学会第 28 回大会にて分科会企画ラウンドテーブル「多様な道徳の育成-プログラムの活用-」を開催した。

日時：平成 29 年 3 月 25 日（土） 会場：広島大学 A5 大会議室 2

【企画主旨】

現在、学校教育の道徳は教科化の流れを受け、転換期を迎えている。具体的には、従来の相手の心情を考えたり資料を読んだりする道徳から、「考え議論する道徳」へ変わろうとしている。このような中、従来の道徳授業や教材では「考え議論する道徳」を行うことが難しく、教材開発の必要性が挙げられる。また、従来の道徳教材は新しく生じた道徳における教育的課題を網羅しているかという点から考えると、検討の余地が残される。その一方で、心理学が積み上げてきた研究知見を振り返ると、「考え議論する」ことが可能な教育プログラムが複数ある。

そこで本ラウンドテーブルでは、発達心理学の視点から提案できる実践研究を紹介した。当日はフロアからの質問も多く、充実した会となった。

ファシリテーターおよび話題提供は、以下の通りであった（敬称略）。

ファシリテーター：渡辺 弥生（法政大学）

話題提供者：

小野間 正巳（関西福祉大学）「大学生への VLF 思いやり育成プログラム」

藤原 誠（香川県立斯道学園）「自立支援のためのソーシャルスキルトレーニング」

原田 恵理子（東京情報大学）「情報モラルの育成」